

令和 5 年 1 月 5 日 メルボルン交流抄

「喜びを創り出す 3D ハンド、笑顔の子どもたちが感謝。」

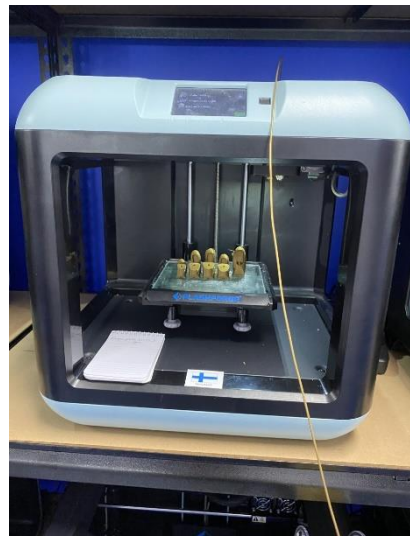
今回は”Manufacturing Joy”をモットーにかかげる FREE 3D HANDS の代表 Mat Bowtell 氏を紹介します。

Bowtell 氏は、ビクトリア州モーニントン半島の先にあるフィリップ島に住まいと工房を構えておられます。先日、そこを訪ねて 3D プリンターが並ぶ現場を見せてもらいました。

彼は子供の頃に鉄腕アトムを見て育ち、日本語の勉強を始め、日本人の先生に背中を押されて、日本でのホーム・ステイを始めます。そこでの経験が後々の彼の人生に大きな影響を与えます。

大学卒業後、日系企業に就職し、失職する3年前に 3D プリンターの技術を取得されそれを使い安価に義手を製作し、無償で手に障害を持つ方々に配布するというボランティアを始めました。失職後も自分の退職金を使いその活動を続け今ではチャリティーを運営されています。これまで 100 万円以上したものが数千円で製作できるようになり、また、製作ノウハウについても特許を取らずに公開して世界のどこでも簡単に作れるようにしています。

それを受け取った子供たちの喜びの笑顔、それを見て涙ぐむ御両親。まさしく FREE 3D HANDS による”Manufacturing Joy”の瞬間です。Bowtell 氏によれば、見返りを求めず誰かの喜びの笑顔のために何かをする、それは以前自分に対して日本のホストファミリーがしてくれたことだとのこと。



ある会合で彼の半生のジャーニーの話を聞くや、誰かと一緒に共有したいと思い、Adelaideの日豪関係に携わる10団体が会する連絡協議会でBowtell氏にオンラインでプレゼンをしてもらいました。皆さん彼の情熱に感動して、明日からの自分の生き方を見直すことに繋がる、といったコメントが聞かれました。



ここに至るまでいろいろとご苦労が Bowtell 氏とご家族にもあったかと思います。彼の半生の歩みについてはオーストラリアのできるだけ多くの人、特に日本語を勉強する人に知ってもらいたいです。総領事館としても今後ともできる限り協力していきたいと思っています。

これからのますますのご活躍を願っています。

